

2021 年 12 月 3 日

811REDEYE
Commuter Train The onboard track patrol assist system

「列車巡視支援システム」

第5回「インフラメンテナンス大賞」において、
国土交通大臣賞を受賞しました

第5回「インフラメンテナンス大賞」の発表があり、JR九州が代表者として応募していた
＜列車巡視支援システムの開発と実用化＞が

国土交通大臣賞（技術開発部門）

を受賞いたしました。

本システムは、公益財団法人鉄道総合技術研究所が開発した線路周辺画像解析エンジンを活用し、NECグループ（日本電気株式会社、日本電気通信システム株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社）に開発のご協力をいただき2020年4月より実用化しているもので、営業車両前方に搭載したカメラ等により、人による巡視の一部省力化と品質向上を図っています。

従来の列車巡視

工務系社員が列車先頭に添乗
目視で確認

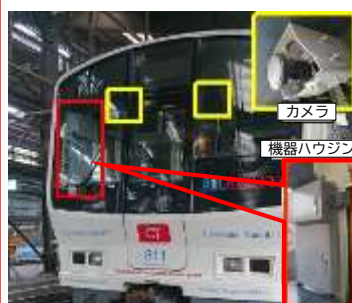


線路沿線の環境変化
線路内の支障物の有無
体感動揺

↓
保守の要否を判断

列車巡視支援システム

撮影した画像を自動転送し建築限界枠の支障箇所の自動判定を行う



営業車に機器類を搭載

自動撮影・解析結果転送



建築限界解析結果のイメージ

→ 保守の要否を判断

今回の受賞を励みにしまして、引き続き鉄道の安全・安定輸送を維持するため、鉄道施設のメンテナンス業務の革新に取り組んでまいります。

第5回「インフラメンテナンス大賞」概要

「インフラメンテナンス大賞」は、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的とし、日本国内における社会資本のメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、好事例として広く紹介するものです。総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、防衛省、国土交通省の各省で全247件の応募から計33件が選考されており、その中で国土交通大臣賞は3件選出されています。